

信長公居館跡出土の金箔瓦について

●発掘時期

平成20、22年度出土。
今年度、出土遺物の整理作業を行う中で金箔瓦であると判明した。

●発掘場所（C地区）

信長公居館の中で面積が大きく、伝承も残っていることから、**中心建物**が存在したと考えられる場所
(C地区西端及び北西側斜面)

●瓦の概要

2種類の金箔貼り付けの飾り瓦

大きさは28cm×28cm、厚さ3cm
屋根の棟を飾ったとみられる。同サイズの無文の瓦もあり。



ぼたんもん
牡丹文? 約60枚の円盤状の粘土で花びらを表現している。牡丹の可能性大。

このような文様の瓦が見つかったのは全国で初めて。

きっかもん
菊花文 20枚の花びらで菊の花を表現している。

◎科学分析の結果、それぞれの瓦に付着している物質が金であることが確認された。一部では漆も検出されており、漆を接着剤に用いて金箔を貼りつけた瓦であることが明らかになった。

分析方法 元素マッピング分析…瓦に残っている金の分析
赤外分光分析…瓦に残っている漆の分析

◎文様や技術の特徴から、**安土城と同じかそれ以前の時期**のものである可能性が高い。

●今回の発見の意義

・絵画資料では、将軍や豊臣秀吉、徳川家康など特別な人に関わる重要な施設の棟を金箔の瓦で飾る描写がみられる。今回の瓦も**織田信長公居館の中心建物の棟を飾る瓦**である可能性が高い。

・屋根部分は板葺きや檜皮葺き等ひわだぶきで、**棟部分のみに瓦が用いられていた**と考えられる。

城郭に金箔瓦を用いる日本で最初の事例となる可能性が高い。
信長公居館の屋根の姿が具体的にになってきた。

飾り瓦（牡丹文？）



飾り瓦（菊花文）



飾り瓦（無文）



洛中洛外図屏風（岐阜市歴史博物館本）二条城御殿部分

